地方独立行政法人大月市立中央病院

令和5年度

業務実績に関する評価結果

全体評価

令和6年9月

大月市

はじめに

大月市は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条に基づき、地方独立行政法人大月市立中央病院（以下「法人」という。）の令和5年度事業年度に係る業務実績について評価を実施した。

評価に際しては、大月市が策定した「地方独立行政法人大月市立中央病院の年度評価実施要領」により、法人の令和5年度事業年度に係る業務実績について評価を行った。

評価にあたっては、地方独立行政法人大月市立中央病院評価委員会条例に基づき、評価委員会に意見聴取を行った。

地方独立行政法人大月市立中央病院評価委員会 名簿

【委員】（氏名五十音順・敬称略）

氏名	備考
小俣 光文	公認会計士（明治大学経営学部 専任教授）
川村 龍吉	県内公立病院（山梨大学医学部附属病院 副病院長）
白川 恵子	有識者（前パルシシステム連合会参与）
蜂須賀 所明	大月地区医師会会長（北都留医師会 副会長）
松田 政徳	県内公立病院（富士吉田市立病院 病院長）

1 業務実績評価の方法

地方独立行政法人大月市立中央病院評価委員会（以下「評価委員会」という。）では、地方独立行政法人法第28条第1項第3号の規定に基づき、法人の令和5年度事業年度に係る業務実績について、市長が評価するにあたり、地方独立行政法人大月市立中央病院評価委員会規則第2条1項の規定により、評価委員会の意見を聴き評価を行った。

評価を行うにあたっては、「地方独立行政法人大月市立中央病院の年度評価実施要領」に基づき、「項目別評価」と「全体評価」により評価した。

具体的には、「項目別評価」では、法人による自己評価をもとに、その後、評価委員会の意見を踏まえ、自己評価の妥当性や年度計画の進捗状況について、小項目評価及び大項目評価を行った。また、「全体評価」では、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び第2期中期計画の進捗状況について、総合的な評価を行った。

【評価について】

評価委員会による評価及び意見

評価委員会は、法人の自己評価及び目標設定の妥当性などを総合的に検証し、年度計画の小項目ごとの進捗状況について、法人の自己評価と同様に1～5の5段階による評価及び意見を付す。

その他、必要に応じて、総合的な事項及び特記すべき点や遅れている点について意見を付す。

評価委員会は、年度計画の小項目（内容によっては複数の小項目）ごとの進捗状況について、次の5段階で評価を行う。

- 5 … 年度計画を大幅に上回って実施している
- 4 … 年度計画を上回って実施している
- 3 … 年度計画を順調に実施している
- 2 … 年度計画を下回って実施している
- 1 … 年度計画を大幅に下回って実施している

大項目評価は、小項目評価の結果、特記事項の記載内容を考慮し、大項目ごとの業務の進捗状況について、次の評価基準により評価を行う。

- S … 特筆すべき進捗状況にある
(概ね 4.5 以上 5.0 以下)
- A … 計画を上回って進んでいる
(概ね 3.5 以上 4.4 以下)
- B … 計画どおり進んでいる

(概ね 2.5 以上 3.4 以下)

C … やや遅れている

(概ね 1.5 以上 2.4 以下)

D … 重大な改善事項がある

(概ね 1.0 以上 1.4 以下)

各段階の評価は、大項目ごとの小項目評価の評点の平均点（少数点以下第 2 位四捨五入）を参考とする。

2 全体評価

(1) 評価結果

令和 5 年度事業年度に係る業務実績に関する大項目評価については、評価対象となる「第 1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」、「第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項」、「第 3 財務内容の改善に関する事項」、「第 4 その他業務運営に関する重要事項」の 4 項目について大項目評価を行った。

法人における全体評価の結果は、

『全体として中期計画の達成に向けて計画を上回って進捗した』と評価する。

大項目評価において、4 つの大項目全てで A 評価（計画を上回って進んでいる）が妥当であると判断したものである。

法人は、中期計画において、地方独立行政法人制度の特長である自主性・自律性を最大限に発揮し、市民が求める地域に根ざした医療の提供を目指し、中期目標を達成するため、理事長、院長を中心に職員が一丸となり取り組んできた。

長年の課題である常勤医師は、令和 6 年 3 月 31 日現在、内科 10 名、外科 1 名の 11 名となっている。外来診療については、山梨大学から各診療科の多くの非常勤医師が派遣されていることにより、大学病院の外来診療が受けられるようになったと好評を得ている。しかし、看護師不足などから令和元年 8 月に、病床を縮小し、その状況が続いていることや、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置づけが 5 類感染症となり、その患者の入院収益等は前年度と比較すると減少したが、山梨大学附属病院との連携や引き続いてコロナ感染症などの感染症患者の受け入れに対応したことにより、患者総数は入院・外来ともに増加し、医業収益は中期計画の目標に近い 2,044,001,741 円となった。

さらに、山梨大学医学部附属病院の東部地域医療教育センターの機能を取り入れ、常勤医師の増加及び非常勤医師の充実に繋げていく一方、医業費用では、外部委託契約の見直しや医療材料の調達コストの見直し、在庫管理の適正化や後発医薬品の採用等に継続して取り組み、市からの運営費負担金・交付金は多額であることから、今後も経営改善に取り組まなけ

ればならない。

入院患者数と外来患者数は前年度よりも増加しており、改善が見られていることから、引き続き入院患者数や外来患者数の増加による増収への取り組みと、今後の病院整備等を見据えた自己財源の確保が急務である。

課題は山積しているが、中期計画時の目標値について、進捗状況の把握や課題解決を行い、業務の改善及び効率化に対して、より効果的な取組や対策を実施されることを期待したい。

以上のことから令和5年度事業年度に係る業務実績は、「全体として第2期中期計画の達成に向けて計画を上回って進捗している」とした。

《大項目評価及び小項目評価の結果》

大項目	大項目 評価	小項目評価					
		5	4	3	2	1	平均
第1 市民に提供するサービス その他の業務の質の向上 に関する事項	A		1 1	5			3.7
第2 業務運営の改善及び効率 化に関する事項	A		2				4.0
第3 財務内容の改善に関する 事項	A		2	1			3.7
第4 その他業務運営に関する 重要事項	A		2	1			3.7
小項目評価 計	2 4		1 7	7			3.7

3 大項目評価

第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果

A評価（計画を上回って進んでいる）

(2) 判断理由

小項目評価の平均点は3.7であり、また以下のことを考慮し「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する大項目評価は、「A評価」が妥当と判断した。

*法人自己評価については、評価委員会において評価の変更はなかった。

<項目別評価の集計結果>

	項目数	項目別評価					平均
		5	4	3	2	1	
1 医療サービス	7		7				3.7
2 医療水準の向上	3		2	1			
3 患者サービスの向上	2		1	1			
4 安全で安心な医療の提供	2		1	1			
5 市の医療施策推進における役割	2			2			
合計	16		11	5			

(3) 大項目評価にあたり考慮した事項

医療サービスでは、富士・東部圏域の中核病院として、医療資源が不足する地域への診療を効果的に行うとともに、既に高齢化人口が減少しつつある本市において、地域医療構想を踏まえた当院の役割を担うため、急性期、療養及び地域包括ケア病床を維持しつつ、患者動向や医療需要等の社会変化に即した対応を図らなければならないことから、令和元年8月に病棟を再編し、入院患者に対応している。

救急医療体制については、夜間・休日の医師等を確保し、365日24時間救急医療体制の維持・充実に努めており、「断らない救急」を目指している。当番医を非常勤医師に

頼らざるを得ない状況が続いているものの、令和5年度の救急応需率は78.9%となり、前年度実績78.4%を上回り、目標値87.5%には至らなかったが、救急受入件数は1,721件、救急患者入院人数は479人と、目標値である1,635件、368人に達した。

高齢者医療については、幅広いリハビリテーションのニーズに応えられるよう努め、令和5年度のリハビリテーション総患者延べ数では15,045人と、前年度と比べ14.4%上回った。

東部地域の災害拠点病院として、令和5年度は、医師2名、看護師7名、技師4名、事務員1名の計14名がDMAT登録されている。令和5年度の活動実績は、10月に中部ブロックのDMAT隊が山梨県に参集し実働訓練を行い、さらに11月には山梨県内にて緊急消防援助隊関東ブロック行動訓練を実施した。また、1月には、当院DMAT隊を能登半島地震被災地（能登町及び輪島市）へ2回派遣した。

健診センターとして、市民の健康保持及び疾病予防の推進に努めており、特定健診やがん検診等の各種健康診断及び職域健診、就職・就学等の健診の受診率向上を目指す中で、新型コロナウイルスへの感染防止対策として、受診者の待ち時間の短縮、健診結果報告書の迅速な作成等の効果により、今後も病気の早期発見と予防医療を地域で行うことに繋げていく。

へき地医療拠点病院として、容易に医療機関を利用できない人々がいる市内の瀬戸地区、奈良子地区、浅川地区、奥山地区、都留市の大平地区、小菅村の長作地区の計6ヶ所で、年間44回のへき地診療を継続して実施した。

医療従事者の確保として、常勤医師が山梨大学附属病院から新たに5名派遣され、11名体制で始めた。医師の採用については引き続き、山梨大学附属病院との関係強化を務めるとともに、人材紹介会社や関係機関等に働きかける等情報発信に取り組んでいるが、採用には至っていない。また、市民より要望が多かった女性放射線技師を2名採用した。看護師は年間通じて養成校への働きかけやハローワークや広報誌への掲載等での募集活動を行った結果、前年度より2名の増員となった。職員の確保・定着対策として、職員個別の事情に配慮し正規から臨時職員への変更や、夜勤専従者を雇い入れたりなどして、柔軟に対応を行った。

地域医療連携の推進については北都留医師会と連携強化を図っているが、紹介率は26.6%となり、前年と比べ5.1%上昇し目的を達成したが、逆紹介率は12.4%となり、目標値には達しなかった。今後も連携強化を図っていく必要がある。

患者サービスの向上としては、患者の利便性向上として、常勤医師や山梨大学附属病院からの派遣医師の充実により待ち時間は緩和傾向にある。また、初診予約制度を行い、眼科や婦人科等の待ち時間の改善に努めている。

安全で安心な医療の提供としては、医療安全対策委員会及びリスクマネージャー会議を毎月開催し、インシデント・アクシデントについての情報共有、安全管理、事故防止対策を徹底した。感染対策では院内感染防止対策委員会が核となり、院内巡視等の対策を講じた。

(4) 評価にあたっての意見、指摘等

別紙「業務実績に関する評価結果」小項目評価」

1～7ページの最右端「評価委員会コメント」のとおり

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果

A 評価 (計画を上回って進んでいる)

(2) 判断理由

小項目評価の平均点は4.0点であり、また以下のことを考慮し「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達するためにとるべき措置」に関する大項目評価は、「A 評価」が妥当と判断した。

*法人自己評価を評価委員会において評価の変更はなかった。

<項目別評価の集計結果>

	項目数	項目別評価					平均
		5	4	3	2	1	
1 地方独立行政法人の運営管理体制の確立	1		1				4.0
2 経営管理人材の育成	1		1				
合計	2		2				

(3) 大項目評価にあたり考慮した事項

地方独立行政法人の運営管理体制の確立については、全部署の代表者等で構成する運営会議を月1回行い、各診療科・部門別の毎月の収支を計算するなどの経営分析や、計画の進行状況を把握し改善点などの協議し業務運営の改善に努めた。

経営管理人材の育成については、各科等でそれぞれが関係する研修会に積極的な参加を促した。また、新しい人事評価制度を令和6年度の本運用開始を目標に取り組んだ。

(4) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし

第3 財務内容の改善に関する事項

(1) 評価結果

A 評価（計画を上回って進んでいる）

(2) 判断理由

小項目評価の平均点は3.7点であり、また以下のことを考慮し「財務内容の改善に関する目標を達するためにとるべき措置」に関する大項目評価は、「A 評価」が妥当と判断した。

*法人自己評価を評価委員会において評価の変更はなかった。

<項目別評価の集計結果>

	項目数	項目別評価					平均
		5	4	3	2	1	
1 経営基盤の確立	1		1				3.7
2 収益と費用の適正化	2		1	1			
合計	3		2	1			

(3) 大項目評価にあたり考慮した事項

経営基盤の確立については、中期目標、中期計画及び年度計画の着実な達成に向けて、各部署の収支を定期的に分析し継続的な改善に努め、令和5年度の実績としては、経常収支比率が100.2%、医業収支比率が98.0%、修正医業収支比率が84.6%と中期計画の目標値を達成した。

収益と費用の適正化については、一般病床利用率は34.9%で、稼働している病床数に対しては78.2%となっており、昨年度の77.6%を上回った。また、複数年契約や業務委託内容の見直しを行い、委託金額の抑制に努め、薬品費や材料費、委託費、職員給与の収益比率の中期計画の目標値を達成した。

(4) 評価にあたっての意見、指摘等

別紙「業務実績に関する評価結果」**小項目評価**

8ページ～9の最右端「評価委員会コメント」のとおり

第4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果

A 評価 (計画を上回って進んでいる)

(2) 判断理由

小項目評価の平均点は3.7点であり、また以下のことを考慮し「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目評価は、「A 評価」が妥当と判断した。

*法人自己評価を評価委員会において評価の変更はなかった。

<項目別評価の集計結果>

	項目数	項目別評価					平均
		5	4	3	2	1	
1 地域医療への貢献	1			1			3.7
2 働き方改革の推進	1		1				
3 新興感染症の感染拡大時に備えた取り組み	1		1				
合計	3		2	1			

(3) 大項目評価にあたり考慮した事項

地域医療への貢献において、常勤医師の多くは北都留医師会のメンバーとなっており、地域医療機関と連携を図っている。

働き方改革の推進では、職員の定期健康診断オプション検査に脳ドックや肺マルチスライスCT検査を追加し職員にとって働きやすい職場となるよう努め、また令和6年度より勤怠管理システム導入に向け、従来の勤怠管理の見直しを行った。

新興感染症の感染拡大時に備えた取り組みについては、山梨県と「新型インフルエンザ等感染症、指定感染症又は新感染症に係る医療を提供する体制の確保に必要な措置に関する協定(医療措置協定)書」を令和6年3月26日に締結した。

(4) 評価にあたっての意見、指摘等

別紙「業務実績に関する評価結果小項目評価」

10ページの最右端「評価委員会コメント」のとおり